



# 第 154 号

平成26年 1 月16日

編集 旭川医科大学  
発行 教務部学生支援課

(題字は初代学長 山田守英氏)



旭川医科大学40周年記念式典で挨拶する吉田学長

開学40周年記念式典式辞	吉田 晃敏	2
開学40周年記念行事		4
教授就任のご挨拶	三好 暢博	6
教授就任にあたって -放射線医学による貢献-	高橋 康二	7
授業評価 (平成25年度前期)		8
インフォメーション		26
平成25年度解剖体慰霊式		27
平成25年度医学科第2学年後期編入生入学式		27
外国人留学生交流事業		28
北海道地区大学体育大会		29
東日本医科学学生総合体育大会結果		29
音楽系クリスマスコンサート		30
平成26年度日本学生支援機構奨学生の募集について		32
平成26年度看護学科学生に対する奨学資金の貸与について		32
平成26年度授業料免除について		32
訃報		32
教員の異動		32



## 開学40周年記念式典 式辞

学 長 吉 田 晃 敏

本日ここに、文部科学省審議官中岡司様を始め、ご来賓各位のご臨席を賜り、旭川医科大学開学40周年記念式典を本学の教職員と共に挙げていただけますことは大きな喜びでございます。大学を代表し、ご列席の皆様方に心から厚く御礼申し上げます。

旭川医科大学は、国立の新設医科大学の第一号として、40年前の今日、昭和48年11月5日に旭川市北門町の仮校舎で開学しました。

当時、医師不足が叫ばれ、都市部と地方との間の「医療格差」が拡大しつつある中、国民は新たな医科大学の誕生に大きな期待を寄せていました。本学に求められたのは、「地域医療を担う新たな人材育成」です。

初代の学長山田守英先生の下、地域に根ざした医療、福祉の向上という本学が目指す方向性の基礎が築かれました。

その後、黒田一秀学長、下田晶久学長、清水哲也学長、久保良彦学長、八竹直学長と続く中で、本学は着実に発展を遂げてまいりました。平成8年4月には、看護学科を設置し、質の高い看護専門職を養成することで道北・道東地域における医療レベルの向上に貢献しております。

平成19年7月には、本学出身の私が第七代学長に就任致しました。私がまず取り組みましたのは、入試制度の改革です。就任当初、入学生の中で北海道出身者が占める割合は3割程でした。道内に根を下ろす医師を育てるためには、道内出身の若者に門戸を広げることが必要と判断し、平成20年度から医学科入学定員の約5割を地域枠としました。

その結果、現在では医学科の入学生を見ますと、北海道出身者が6割を上回るようになり、これから続々と誕生する若い医師たちが、本学、そして北海

道に残り、地域医療、医学の発展に大いに貢献してくれることを期待しております。

さて、開学以来、本学からの卒業生は医学科で3,580名、看護学科では947名となり、合計で4,527名の有為な人材が医療現場の最前線はもとより、研究機関や行政機関、そして海外の医療拠点などで活躍し各界から高い評価を受けてまいりました。

今本学は、国立大学として教育、研究、診療、そして社会貢献の観点から、次の時代を見据えた様々な改革に着手しております。

その概要を次に紹介します。

まず、教育面では、これまでのカリキュラム改革を踏まえて、更に今後の基本的な方向性となる「グランドデザイン」を2007年に策定しました。それを受けて、また学生のニーズを取り入れ、新しいカリキュラムを2009年からスタートさせております。

今、国際化の進む中、医学教育も国際的な認証評価に適合する事が求められる時代となってきました。このようなグローバルな変化に対応し、かつローカルに活躍できる医療人を養成すべく、本学は今、2015年を目標に国際認証に対応できる新たなカリキュラムの作成に取り組んでおります。

加えて、道内各地の高校生が、地元の医師と触れ合うことで地域貢献という高い志を抱くよう「高大病連携によるふるさと医療人育成」プログラムを道内各地の医療機関と実施しております。

続いて、研究面の新たな取組みとして、法人化後独自の組織改革を行い、「脳機能医工学研究センター」を新設しました。ここでは、運動機能障害や高次脳機能障害を克服するための「機能再建医療」の確立を目指しています。また、従来の動物実験施

設、実験実習機器センター及びRI施設を統合して、「教育研究推進センター」を新設し先進医学研究の支援体制を強化しました。

診療面では、「呼吸器センター」、「乳腺疾患センター」、「リハビリテーション科」、「入退院センター」などを新設し、大型機器も導入し地域の多様な医療ニーズにえています。これらの先行投資により、病院収入もここ数年増収が続き、病院経営も安定しております。その増収分を、職員の増員や待遇改善の財源に充てております。

社会貢献・国際貢献では、本学独自の遠隔医療技術を用いての中国への支援や、北海道メディカルミュージアム、ウェルネットリンクなど、ICTを活用した新しい医療サービスを行っております。現在、本学は旭川市の大学等と旭川市、道とで形成している旭川ウェルビーイング・コンソーシアムの代表校として、地域住民の健康の保持増進の中心的な役割を担っております。

以上の機能面での改革と並行して、環境面の整備も行ってきました。今、本学のキャンパスを見ますと、設立時の基礎臨床研究棟は総合研究棟と名称を変え、全面改修が完了しました。また、講義実習棟もまもなく全面改修が完了します。加えて、図書館も改修及び増築の工事が進行中であります。本学病院は、9年前に改修工事を終え、法人化以後今日まで看護師を始めとする病院職員を約410名増員し、組織の更なる拡充を進めてまいりました。その後、ドクターヘリ用のヘリポートを敷地内に整備し救命救急センターを新設して、道北・道東地域を中心とした救急医療の拠点としての機能も更に強化しております。

これらの一連の整備で環境は飛躍的に改善され、それに伴って、教育、研究、診療そして社会貢献も活性化され充実してまいりました。

国は今、国立大学に対し、学長のリーダーシップの下で、更なる機能強化に積極的に取り組むことを求めています。本学は、文部科学省と協議を重ね、医学科の機能強化の柱、いわゆる「ミッションの再定義」を完成させたところです。

その要点は、次の4つにまとめられます。

- 1つ目は、地域医療に対する強い意欲・使命感を持った学生を積極的に受け入れ、地域医療に根ざした医師や研究者等の養成を積極的に推進すること。
  - 2つ目は、北海道と連携し、広大な北海道の医師偏在の解消に貢献すること。
  - 3つ目は、本学特有の研究の実績を活かし、新たな医療技術の開発や日本発のイノベーション創出を目指すこと。
  - 4つ目は、本学病院が地域がん診療連携拠点病院や救命救急センター等として、地域医療の中核的役割を担うこと。
- の4点でございます。

看護学科の「ミッションの再定義」につきましては、現在、文部科学省と調整中であります。

本学は、本日ここに開学40周年を迎え、新たなスタートを切りました。

新たに掲げるミッションを基に、地域医療を担う人材育成という原点にもう一度立ち戻りながら、更なる教育・研究・医療の発展、意欲ある医療人の育成、そして社会貢献に、一層力を尽くしてまいり所存でございます。

本日ご臨席を賜りましたご来賓の方々を始め、これまで本学の歴史を築いてこられた教職員、同窓生そして関係者の皆様方に重ねて感謝申し上げます。

今後共、本学に対し引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。私の式辞とさせていただきます。

平成25年11月5日



# 旭川医科大学開学40周年記念行事

旭川医科大学は、昭和48年11月5日、国立の新設医科大学の第一号として開学しました。「地域医療に根ざした医療、福祉の向上」を旗印に開学し、以来40年間、地域はもとより、国内外の医療機関、研究機関、行政機関など幅広い分野へと活動の範囲を広げてきました。

この歩みをさらなる未来へとつなぐため、旭川医科大学は、平成25年11月5日（火）、「開学40周年記念行事」として、「記念講演会」「記念式典」「記念祝賀会」を開催しました。

【記念講演会】（15：00～16：00 旭川市民文化会館）

【記念式典】（17：15～18：20 旭川グランドホテル）

【記念祝賀会】（18：30～20：00 旭川グランドホテル）

旭川市民文化会館で行われた記念講演会は、「旭川市民の健康を日本一にするための私の提言－102歳の長寿の実績をふまえて－」をテーマに、聖路加国際メディカルセンター理事長・旭川医科大学元参与 日野原 重明 先生にお話いただきました。

10月に102歳を迎えられた日野原先生は、ご自身の健康の秘訣や日頃の生活の様子、講演活動への思いや私たちへの提言など、ステージ上を歩きながら、ユーモアを交えお話しされ、会場の聴衆も終始笑いを誘われながらも重みのある講演に聞き入っていました。



▲記念講演会 学長挨拶

その後、市内のホテルに会場を移し、文部科学省の中岡審議官、地元の国会議員、三上北海道大学理事をはじめ、多数のご来賓のご臨席のもと記念式典を挙行了しました。

記念式典では、吉田学長の式辞に続いて、文部科学大臣をはじめ、ご来賓の方々から心のこもったご祝辞を頂きました。式典終了後、記念祝賀会が開かれ、歴代の学長、病院長、職員OB、現職教職員が一同に会してこの40年の足跡をふりかえり、和やかに歓談されました。



▲記念講演 日野原先生

# 40年のあゆみ

- 昭和47年 7月1日 旭川医科大学創設準備室設置
- 昭和48年 9月29日 旭川医科大学設置
- 11月5日 第1回入学式挙行
- 昭和50年 4月1日 附属病院創設準備室設置
- 昭和51年 5月10日 医学部附属病院設置
- 昭和54年 4月1日 大学院医学研究科設置
- 平成8年 4月1日 医学部看護学科設置
- 平成12年 4月1日 大学院医学研究科を大学院医学系研究科に改称
- 大学院医学系研究科に修士課程看護学専攻を設置
- 平成15年11月5日 開学30周年記念式典挙行
- 平成16年 4月1日 国立大学法人旭川医科大学発足
- アドミッションセンターを入学センターに改組
- 平成17年 8月1日 医学部附属病院検査部、輸血部を臨床検査・輸血部に統合
- 11月1日 医学部附属病院を旭川医科大学病院に変更
- 11月7日 病院点滴センター設置
- 平成18年 1月1日 病院地域医療総合センター設置
- 4月1日 医学科基礎医学1大講座及び12講座を5大講座及び4講座に、臨床医学19講座を2大講座及び14講座に再編
- 病院光学医療診療部設置
- 病院理学療法室を理学療法部に改組
- 11月8日 教育センター設置
- 平成19年 1月1日 病院感染制御部設置
- 5月1日 病院腫瘍センター設置
- 平成20年 2月13日 病院診療技術部設置
- 5月15日 病院呼吸器センター設置
- 平成21年 7月8日 病院緩和ケア診療部設置
- 8月1日 病院栄養管理部設置
- 9月9日 臨床シミュレーションセンター設置
- 12月1日 泌尿器科学講座を腎泌尿器外科学講座に改称
- 12月9日 病院入退院センター設置
- 平成22年 2月17日 地域医療教育学講座設置
- 3月24日 脳機能医工学研究センター設置
- 4月1日 復職・子育て・介護支援センター設置
- 情報処理センターを情報基盤センターに改称
- 4月21日 知的財産センター設置
- 10月1日 病院救急部を救命救急センターに改組
- 平成23年 4月1日 教育研究推進センター設置
- 動物実験施設、実験実習機器センター、放射性同位元素研究施設を教育研究推進センターの技術支援部に改組
- 5月1日 病院リハビリテーション科設置
- 11月1日 病院乳腺疾患センター設置
- 病院理学療法部をリハビリテーション部に改組
- 平成24年10月1日 地域がん診療連携講座設置
- 11月14日 病院透析室を透析センターに改組
- 平成25年11月5日 開学40周年記念式典挙行



文部科学大臣 祝辞



北海道知事 祝辞



旭川市長 祝辞



祝賀会 鏡開き



祝賀会 歓談風景



祝賀会 万歳三唱



## 教授就任のご挨拶

英 語 教 授 三 好 暢 博

2013年11月14日付けで英語科教授を拝命致しましたので、ご挨拶を申し上げます。私は、幼稚園の年少組まで旭川で生活しておりました。以後、高校までを札幌で、大学・大学院を仙台と米国で過ごしました。東北大学文学研究科英語学研究室助手を奉職しておりましたところ、ご縁がございまして、2004年11月に旭川医科大学の講師として採用していただき、現在に至ります。祖父母と共に過ごした旭川の地で、働く機会を与えてくださったことを本当に感謝しております。微力ではございますが、本学の職務を誠実に務めることで、愛する郷土の発展のために少しでも貢献していきたいと考えております。

医師をはじめとする医療従事者が修得すべき知識・技能、及び、その実践は、ボーダレスであり、国際言語である英語を修得することは、将来、学生が医療人として自己を実現していくための一助となるはずです。私は、本学での英語教員としての自分の仕事を、「道具としての英語」を修得する手助けをすることだと考えております。医学生にとって、「道具としての英語」を身に着けるということは、英語医学論文の正確な読解力、英語による海外発信能力、さらに、英語による口頭研究発表能力を修得することにほかなりません。語学力養成一般にいえることですが、このような能力は、学生個々人の鍛錬に大きく依存します。したがって、英語の学習指導においては、英語学習の動機を高めることが最も重要です。常に学生と誠実に接し、楽しく学べる場を提供することで、学習の動機づけを高めることを心がけたいと思っております。

私は、理論言語学に分類される生成文法統語論を専門としています。生成文法は、マサチューセッツ工科大学のノーム・チョムスキー教授により約60年前に提唱された言語理論です。この言語理論は、人間の言語に普遍的に備わっている演算操作とそれら

の操作に課される制約を明らかにすることにより、広義の人間性の解明に寄与することを第一の目標に掲げています。ミツバチのダンスなどに知られるように、さまざまな動物に、何らかのコミュニケーションシステムが存在します。しかし、人間の言語には、他の動物には見られない、非連続的依存関係という性質が存在します。この非連続的依存関係というのは、記号列 A B C D Eにおいて、隣接AとEを関係づける操作です。たとえば、What did you see? という例文において、疑問代名詞whatは動詞seeの目的語として解釈される現象に対応します。このような非連続的依存関係は、「移動」という比喻を用いて表現されます。生成文法では、人間言語の特性を解明する上で、人間言語に固有の現象である「移動」操作が、非常に重要な研究対象であると考えられています。現在、私は、比較統語論の見地から、移動操作に課される制約の特性を研究しており、この研究を継続していくつもりであります。

大学業務に関しては、与えられた場で誠意をつくすという態度で臨みたいと考えております。現在、カリキュラム等で働く場をいただいておりますが、他の先生方に多大なご迷惑をかけることもなく学内業務に取り組むことができたのも、諸先生ばかりでなく、事務職員の方々の細やかな配慮と真摯なサポートのおかげであると考えております。今後も、支えていただいているという気持ち忘れずに、大学業務に取り組んでいきたいと考えております。

浅学非才の身ではありますが、教育・研究・学内業務をバランスよく取り組むことで、旭川医科大学発展のために、少しでもお役に立てることを切に願っております。皆様方におかれましては、今後ともご指導の程、どうかよろしくお願いいたします。



# 教授就任にあたって

## －放射線医学による貢献－

放射線医学講座 教授 高橋 康二

2014年1月16日付で、放射線医学講座教授を拝命いたしました。私は昭和57年に旭川医大の4期生として卒業、本学放射線科で4年間の研修を受た後、画像診断学を志し自治医科大学放射線科へ移りました。その後は自治医大で12年間、アイオワ大学で2年間、旭川医大で14年間と30年弱に渡り、画像診断とインターベンショナルラジオロジー（IVR）を中心に放射線科診療に従事して参りました。自治医大は日本で数少ない、欧米スタイルで総ての画像診断を放射線科が行っている施設であり、単純X線写真から消化管透視、尿路等の様々な造影検査、血管造影、超音波、CT、MRI、核医学と画像診断全般の診療に従事することが出来ました。自治医大には、当時全国から多くの放射線科医が勉強に来ており、一緒に診療した仲間との交流は現在も続いており、私にとって貴重な人脈となっています。アイオワには客員准教授として招聘され、胸部画像診断とIVR部門で診療と研修医の教育を担当し、米国の医療レベル、研修医のレベルや教育システムを実体験として理解する貴重な機会となりました。旭川に戻ってからは放射線部の副部長・部長として病院診療における放射線科・放射線部の役割について、中央部門として貢献・機能することを命題として、放射線科医師や放射線技師、看護師と共に診療業務で様々な試行錯誤を繰り返し多くのことを学びました。

放射線科・放射線部は病院の中央部門としての色合いが濃く、常に他の診療科との密接な連携が重要となります。旭川医大病院の診療において、機能的に放射線科業務を遂行し他科の診療をサポートするため、現場のニーズに応えられる診療業務を目指して来ました。画像診断領域では、必要な画像検査を迅速に行い、的確な画像所見を迅速に提供し、必要なIVR手技を施行しています。放射線治療は、外科治療、化学療法と並び癌診療で重要な役割を担っており、高精度の照射技術、最新装置の開発を追い風に、急速にその重要は伸びています。放射線治療においても、他の診療科との密接な連携を保ちながら治療医は活躍しています。これらの業務の遂行を通じて、放射線科医は各診療科の医師にとって頼り甲

斐のある心強いパートナーとなることができると考えています。ただ実際には、画像検査の急増や専門分野の細分化、人的パワー不足などの問題も山積しています。実現に出来ることと出来ないことを明確にし、問題を一つ一つ解決して行くことが科長としての私の使命であると痛感しています。

放射線科として特に力を入れ取り組んでいることに、放射線医学の教育があります。特に我々は診療に役立つ実践的な教育を目指しており、中でもすべての医師に必須であり診療において重要な情報源となる画像診断は、学生教育のみならず研修医の修練においても、重要性が増しています。この3月からは、学生・研修医を対象に「画像診断を学ぼう会」をスタートさせ、先日も多くの方に参加していただきました。この会では、講義形式ではなく、症例ベースでディスカッションを通して読影方法の実際を学ぶことを目標としています。今後、月一回の開催を予定しており、形式・内容については参加者の意見を取り入れて、皆で楽しい会を作っていきたいと考えています。

放射線科医師や放射線技師または関心を持つ医師が、画像診断や放射線治療を学ぶ場として、今回「先端放射線医学セミナー」を立ち上げました。第一回は、MRIの日本の第一人者である前山梨大学医学部教授の荒木努先生にご講演をいただき、旭川のみならず札幌を始め広い地域から100名近い参加者がありました。今後も先端医学の勉強の場として継続していきたいと考えています。

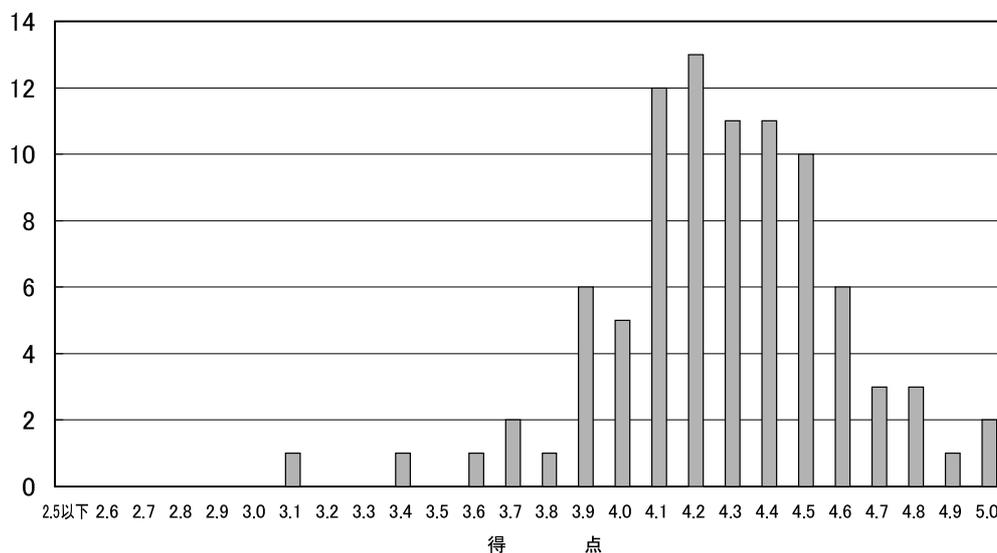
放射線科領域は、現在も装置やIT分野の急速な進歩を追い風に、急速に進化し続けています。学会、研究会でも若手医師がcutting edgeの領域において、先頭に立って牽引し活躍しています。若手医師にとってチャレンジできる多くのチャンスがある領域です。志を持った多くの若手医師の参加を期待しております。地域枠の導入もあり、卒後大学に残る学生も増えています。旭川医大が創設期の頃の活力を再び取り戻して発展していくことを強く願っていますし、その予兆を感じております。

皆様のご指導、ご支援をよろしく願いいたします。

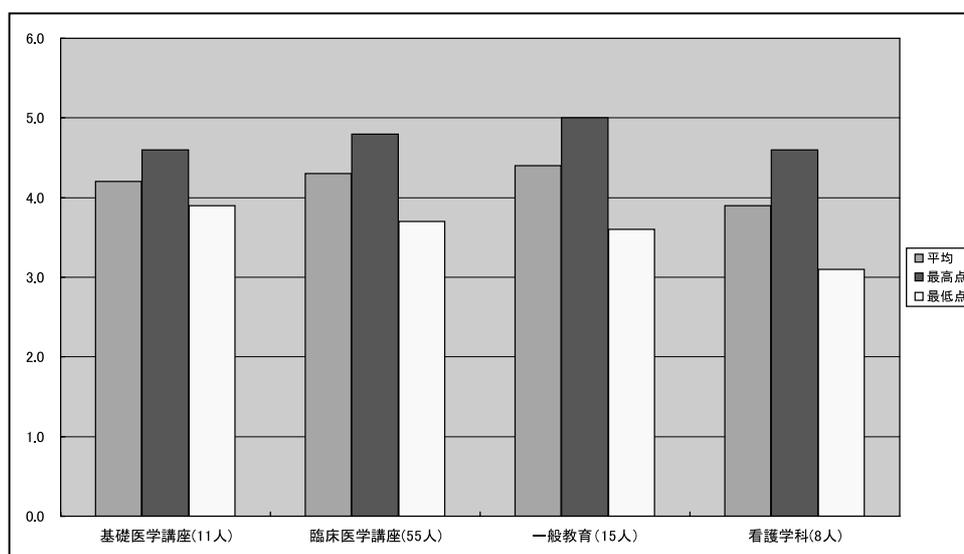
## 平成25年度前期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

人数	得																	点									
	2.5以下	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9	5.0	
	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	2	1	6	5	12	13	11	11	10	6	3	3	1	2	

(実施人数89名 平均4.3)



### 部局別教員の平均点と最高・最低点



### 講義に対する学生評価

問 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
- ④ やや思う (良い)
- ③ どちらとも言えない (普通)
- ② あまりそう思わない (あまり良くない)
- ① 全くそう思わない (良くない)

## 科目全体の講義企画に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。 問2 授業に毎回出席しましたか。 問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。 問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
科目構成	問5 科目全体の履修目的は、履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問6 履修主題間で、内容の過度な重複は避けられていましたか。 問7 各履修主題に割り当てられた時間のバランスは適切でしたか。 問8 担当教員は履修主題に沿って授業を行いましたか。
科目内容	問9 各履修主題の難易度は適切でしたか。 問10 科目全体の内容は理解しやすいものでしたか。 問11 科目全体の履修の目的は最終的に達成されましたか。 問12 科目全体の内容は今後の学習意欲を増すものでしたか。 問13 試験や提出物（レポートなど）の量と内容は適切でしたか。
総合評価	問14 この科目は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）  
④ やや思う（良い）  
③ どちらとも言えない（普通）  
② あまりそう思わない（あまり良くない）  
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：自然科学入門（化学）（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：4 配付数：4 回収数：4 回収率：100%

### \*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
4.3	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	2.8	4.5	3.5	3.3	3.8	4.8	4.5	4.3

### \*評価に対するコメント

自然科学入門（化学）担当教員

自然科学入門は高校と大学での勉強の質の違いや科学的な考え方の基本について学生に早く気付かせる最初の機会である。高校化学のポイントの復習と6月から始まる基礎生化学への接続教育を行った。講義では物事の事実と理論に基づいた論理的な思考とはどのようなものかを説明しながら講義を行った。20コマという限られた時間の中で細かいところまでの説明が行き届いていないとするコメントが寄せられたが、学生からは講義に関しては好意的なコメントが寄せられた。次回からの講義の中で改善してゆきたい。

科目名：自然科学入門（生物）（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：51 配付数：51 回収数：48 回収率：94.1%

### \*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.7	4.0	3.2	3.9	4.1	3.7	4.2	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.7

### \*評価に対するコメント

自然科学入門（生物）担当教員

本講義は高校生物の補習を目的としている。去年より総合評価が低下した理由として（去年4.1）、今年は理解不足のまま講義を終える学生が多かった点が挙げられる。一方、本講義内で行った4回の試験で合格点に満たなかった学生には、後日、呼び出しをかけ、口頭試問を行い、勉強方法等を含めた指導を行った。学生は、受け身にならず積極的に勉学に励むとともに、教員側も、充実した講義のために周到な準備が必要であると感じた。

科目名：自然科学入門（物理）（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：57 配付数：55 回収数：55 回収率：100%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.6	4.0	3.1	3.6	4.0	3.2	4.0	3.3	3.1	3.6	3.3	3.6	3.5

**\*評価に対するコメント**

自然科学入門（物理）担当教員

総合評価は昨年より0.1増加し、各項目の評価も若干増加した。改善すべき点は昨年と同内容の講義であったにもかかわらず、0.2減少した問7、9、10の項目です。受講者（物理未履修者）が約3割増えた結果かもしれない。自己学習の評価（問1、4）はA組とB組で1近く差があった。この結果、試験の結果もA組とB組で評価が分かれた。本科目は主に物理未履修者を対象としたリメディアル科目であり、今後の講義科目に必要な最小限の知識習得を目指す。開講期間は短いがいっしょに学んで欲しかった。

科目名：地域医療学（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：113 配付数：101 回収数：100 回収率：99.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.1	4.7	3.8	2.4	4.0	3.6	3.9	4.3	4.1	4.2	4.1	4.0	3.9	4.1

**\*評価に対するコメント**

地域医療学担当教員

北海道地域医療の現実と問題点、旭川医大がそれにどのように取り組んでいくのかという点について、実際に地域医療に長期に従事した経験のある講師から話を聞き、グループワークを行うことでおおむね理解されたものと思われまます。来年度以降も同じ形式で、授業を続けたいと思います。

科目名：医療概論1（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：118 配付数：115 回収数：109 回収率：94.8%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.3	4.6	3.9	2.6	4.2	4.1	4.0	4.1	3.8	3.9	3.9	3.9	3.8	4.0

**\*評価に対するコメント**

医療概論1担当教員

医学教育コアカリキュラムの「医の倫理と生命倫理」に完全対応した講義である。わずか15時間なので、医師国家試験の動向をも踏まえつつ無理・無駄・斑（むら）のない講義を心掛けた。例年、テキスト教材には、担当教員が独自に編集・簡易製本した非売品を用い、毎年改定を重ねてきたが、今回初めて「構成がよくできている」との評価を得た。そのためもあってか、学生の期末試験の出来栄は昨年に比べかなり良かった。しかし、授業評価点はほぼ例年並みであった。

科目名：情報統計学（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：112 配付数：104 回収数：99 回収率：95.2%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	4.6	4.1	3.1	3.8	4.1	3.9	4.2	3.6	3.2	3.8	3.4	3.8	3.8

**\*評価に対するコメント**

情報統計学担当教員

評価の客観性を高める為、複数回の筆記試験の実施を徹底しました。  
初年次前期科目の得手不得手は入学前の学習内容の影響もありますが、学生各自が熱心に取り組み、それぞれ高い能力を示されたと受け止めています。  
今後、統計学を復習される機会があれば、質問には対応しますのでお尋ねください。  
全体評価は「3.8」とまあまあの評価をいただきましたが、講義中、フォローアップでの意見を参考にして質を高めていきます。

科目名：心理学（医学科第1学年前期／必修）  
履修者数：113 配付数：108 回収数：104 回収率：96.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.3	4.7	4.1	2.6	4.2	4.2	4.2	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.0	4.4

**\*評価に対するコメント**

心理学担当教員

学生自身についての評価では、「予習」と「復習」の評価が2.3、2.6であり、予習・復習の指導が必要と思われる。一方、科目構成と内容についての評価（問5から問8）は4.2から4.4、全体の満足度は4.4となり、昨年度より高い評価が得られた。コメント欄でも、「体験型の楽しい授業」という声が多かった。これは、実験や検査等を適宜用いたためと思われる。

科目名：生化学1（医学科第2学年前期／必修）  
履修者数：102 配付数：99 回収数：67 回収率：67.7%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.1	3.7	3.6	4.0	3.8	3.9	4.2	3.8	3.7	3.8	3.6	4.0	4.0

**\*評価に対するコメント**

生化学1担当教員

生化学1は、生化学2および機能形態基礎医学など一連の基礎医学系科目の出発点として、また生化学実習のための基本を学ぶ科目としての意義を持たせてあります。複雑な代謝反応とその制御、それらの異常による病態発症など、生命現象を分子レベルで理解する“生化学”の重要性を認識し興味を持って学習できるように継続的に改良しています。講義ごとの小課題により重要ポイントを復習することや、講義日程終了後でしかも生化学実習の開始前に単位認定試験を実施するなどの工夫により学習効果があがるよう企画しています。授業評価では問1と問4（自身の予習・復習）の評価点が低い（2.8、3.6）ことが極めて残念です。今後、各自の発奮を期待します。学生の皆さんには、日々の予習・復習及び小課題レポート提出など、自学自習の習慣を身に付けさらに徹底していただきたいと思います。

科目名：生化学2（医学科第2学年前期／必修）  
履修者数：106 配付数：104 回収数：86 回収率：82.7%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.2	3.7	3.4	4.1	4.1	3.9	4.2	3.6	3.5	3.8	3.9	3.7	4.0

**\*評価に対するコメント**

生化学2担当教員

生化学2は生化学1の内容をさらに発展させて代謝とその異常による病態を一連の講義展開により分子レベルで理解できるように、そして機能形態基礎医学など一連の基礎医学系科目の出発点となるようにカリキュラムを組んでいます。毎回の講義では小テストやレポート課題により重要ポイントを復習して各自が学習効果を高められるよう企画しています。授業評価では問1と問4（自身の予習・復習）の評価点が低い（2.9、3.4）ことが極めて残念です。問9、10の難易度・理解しやすさ（3.6、3.5）の評価点は年々徐々に高くなっています。これまでの授業評価点や自由記載など、皆さんの意見を取り入れて配布資料や授業方法などの改良に取り組んできた結果が徐々に表れてきたものと考えています。本科目の内容は、生命現象を分子レベルで学ぶものであり医学の基礎を成すものです。生化学1やこれまでの講義科目に比較して分量や難易度が増していると感じることはあるかもしれませんが、本科目習得の必要性と今後展開される基礎および臨床医学の学習に備えるためにも、予習・復習及び小課題レポート提出など、日々の自学自習の習慣を身に付け、さらに徹底していただきたいと思います。

科目名：医療概論2（医学科第2学年前期／必修）  
履修者数：102 配付数：99 回収数：84 回収率：84.8%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.4	3.6	3.0	3.8	4.0	3.9	4.0	3.8	3.7	3.8	3.6	3.7	3.6

**\*評価に対するコメント**

医療概論2担当教員

医療や臨床研究に関する倫理的・哲学的な内容が中心の科目になっていて、学生時代から医師となった後も生涯にわたり研鑽を続ける必要がある内容です。予習・復習はあまりされていないようですが、シラバスを見て最低限の予習・復習を心がけてください。

科目名：医用機器学（医学科第2学年前期／必修）  
履修者数：102 配付数：102 回収数：79 回収率：77.5%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	4.3	3.6	2.7	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8

**\*評価に対するコメント**

医用機器学担当教員

最近生化学・分子生物学を駆使した医用機器の発展が著しい。それに対応するべくプロテオームおよびゲノム解析等を含めた医用機器の講義を網羅したカリキュラムに一部工夫・改善しています。また、講義の一部に動画を採用し、医用機器の応用例をわかる安く設営するようにしています。その結果、講義の出席率も昨年より0.3ポイント、また、履修主題の難易度や科目全体の内容の理解度がそれぞれ0.3ポイント、0.4ポイント向上しました。

さらに作今診断に有用な高度な画像解析装置の発展が急速に進んでいる事に対応するため、平成26年度には教育研究推進センターの新教員による画像解析の充実化を目指しています。

科目名：免疫学（医学科第2学年前期／必修）  
履修者数：102 配付数：100 回収数：73 回収率：73.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	3.6	3.6	2.9	3.8	3.6	3.7	3.8	3.5	3.5	3.6	3.8	3.7	3.7

**\*評価に対するコメント**

免疫学担当教員

免疫学は多領域にまたがり、内容的にもファジーで難しい学問領域で学生さんには理解がやや困難と思われるます。また専門の講座もないため多くの講座の先生方によって担当されており若干の混乱はあえて仕方ないと思います。30コマありますがやや冗長でもあり、今後は思いきって半分にしてもらいエッセンスを講義する方が良いかなと思う次第です。

科目名：組織学（医学科第2学年前期／必修）  
履修者数：106 配付数：101 回収数：73 回収率：72.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.6	4.1	4.1	3.6	4.3	4.2	4.0	4.2	3.9	4.1	4.0	4.3	3.8	4.1

**\*評価に対するコメント**

組織学担当教員

新カリキュラムになって4年目となり、この科目の実施方法や成績評価方法は、ほぼ完成している。本科目では成績判定基準を事前に周知するとともに試験結果を詳細にわたりすべて公開し、公正で透明性の高い成績評価を心がけている。本年度は2年次に進級する際に学力の足りない学生がスクリーンアウトされていたためか、受講態度も比較的眞面目で、講義内容に対する不満もほとんどなかった。来年以降もこの方針を変えず、この科目を運営していく予定である。

科目名：医学英語Ⅲ（医学科第3学年前期／必修）  
履修者数：121 配付数：108 回収数：73 回収率：67.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.4	4.7	4.3	3.8	4.1	4.1	4.2	4.3	4.3	4.2	4.0	4.1	4.2	4.2

**\*評価に対するコメント**

医学英語Ⅲ担当教員

医学英語Ⅲは、学生のみなさん全員が取り組むe-learningコースと、講師ごとに分かれて行う選択コースの組み合わせで展開しました。多くの建設的なフィードバックをありがとうございました。今後の授業計画に反映していきたいと思ひます。一昨年度は、選択コースのクラスサイズが大きすぎるとの指摘がありましたので、昨年度と本年度は、選択コース数を増設して対応しました。選択コースに関しては、内容には満足しているというコメントがある一方で、クラスサイズをもっと縮小すべきであるという意見も寄せられました。どのようにして、積極的な授業参加を促すかという問題と関係していますので慎重に検討していきたいと考えております。

科目名：心肺病態制御医学（医学科第3学年前期／必修）  
履修者数：122 配付数：111 回収数：90 回収率：81.1%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	3.9	3.8	3.0	4.0	3.4	3.7	4.1	4.0	3.8	3.9	4.1	3.7	3.9

**\*評価に対するコメント**

心肺病態制御医学担当教員

授業を担当される先生方には、ただただ頭の下がる思いだが、コーディネーターとしては、学生の意見にも耳を傾けていただきたいと願わざるを得ない。多方面から構成されている循環器・呼吸器の講義内容に重複が生じるのはやむを得ないことでもあるが、無意味な反復は避けたい。授業展開期間がもう少し長期にわたる余裕のある形であれば、反復により知識を確実にする効果も期待できるはずである。3学年で始まる臨床講義の最初の数ヶ月で終了する短期集中講義であるため、5学年で臨床実習にたどり着いた頃には、循環器・呼吸器の知識はかなり危うい状況にある。講義展開の時期と方法にも一工夫が必要であるかもしれない。

科目名：消化器医学（医科第3学年前期／必修）  
履修者数：121 配付数：118 回収数：55 回収率：46.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	4.3	4.0	3.3	4.1	3.4	3.9	4.1	4.1	4.0	4.1	4.2	4.0	4.1

**\*評価に対するコメント**

消化器医学担当教員

消化器医学の学生評価は、授業の満足と思うものが86%、どちらとも言えないが12%、思わないものが2%であり、おおよそ満足のいく講義であったと評価であった。改善すべき点として、教材が適切でなかったとの指摘が4名あり、いずれも、スライドをそのままプリントにしたためグラフが見えにくいなどのテクニカルな問題であることから今後解決したい。準備に問題があったとの指摘が1名あり、講義内容が医学概論と重複していたためと考えられ、3名より同様のコメントがあったが、今後重複がないさらに興味ある講義としたい。

科目名：医療概論3（医科第3学年前期／必修）  
履修者数：121 配付数：107 回収数：69 回収率：64.5%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.7	4.0	2.9	4.0	4.2	4.1	4.4	4.2	4.2	4.3	4.0	4.0	4.1

**\*評価に対するコメント**

医療概論3担当教員

医師として活動する際に必要な、法的・倫理的責務、保健医療福祉にかかわる国の政策・制度・現状と課題、社会的に注目度の高い臨床医療領域、ワークライフバランスなど広く学ぶものである。ワークライフバランスは好評であった。今年度に加えた臨床医療は特論的な印象を与えたようだ。全体評価は昨年度と変わらなかった。多様な内容のオムニバス方式であり統一感が出しにくい、改善を試みたい。

科目名：整形外科学（医科第4学年前期／必修）  
履修者数：128 配付数：121 回収数：75 回収率：62.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.7	3.9	3.7	2.8	4.1	3.9	4.0	4.2	4.1	4.1	4.1	4.0	4.1	4.1

**\*評価に対するコメント**

整形外科学担当教員

講義構成（問5－8）は平均4.05、講義内容（問9－13）も平均4.08であり、講義全体の満足度（問14）4.1と合わせて考えると、良い講義企画であったと判断できる。

しかし、学生さん自身の授業への取り組み姿勢（問1－4）は平均3.2であり、学生さんにとっては受け身的な講義が繰り返されていることが推察された。

今後は、学生さん自身の学習意欲を高めるような講義企画を取り入れていくことが望ましいと考えられた。

科目名：臨床放射線学（医科第4学年前期／必修）  
履修者数：127 配付数：118 回収数：56 回収率：47.5%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.1	3.8	3.1	3.9	4.0	3.8	4.0	3.7	3.5	3.8	3.8	3.6	3.9

**\*評価に対するコメント**

臨床放射線学担当教員

学生諸君にはアンケート協力を感謝します。授業内容に対して時間数が不足しているという意見もありました。臨床業務に多大な時間を要していることもあり、また他科との兼ね合いもあり、授業時間をすぐに増やすのは不可能ですが、講義・教育は非常に重要な事項と認識しています。可能な範囲で教育センターとも協議したいと考えます。

科目名：麻酔・集中治療学（医科第4学年前期／必修）  
履修者数：129 配付数：123 回収数：79 回収率：64.2%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.2	4.2	4.0	3.4	4.1	4.0	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.3	4.0	4.2

**\*評価に対するコメント**

麻酔・集中治療学担当教員

麻酔・集中治療学は、麻酔・蘇生学および救急医学の2講座で構成されており、主に急性期の侵襲制御に関する内容を網羅している。昨年度まで講義のスライドや資料を1冊子に集約し全学生に配布し非常に好評を得ていたが、昨今の財政事情によりペーパーレスに取り組みオンライン化したところ、不評を買ってしまった。オンライン化は最新の情報を発信していくためのやむを得ない処置としてご理解していただき、今後も本講がより中身の濃いものになるよう改善に取り組んでいきたい。

科目名：衛生・公衆衛生（医科第4学年前期／必修）  
履修者数：127 配付数：109 回収数：61 回収率：56.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.1	3.7	3.3	3.9	3.8	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.8	3.8	3.9

**\*評価に対するコメント**

衛生・公衆衛生担当教員

医療制度や予防・公衆衛生、環境医学・産業医学と多岐にわたる内容のため、記憶して理解すべき内容も多くなっています。そのため、単純なポイントを少々覚えておけば良いわけでもなく、また、意見にあったようなテストの問題を講義中に教えるべきとも考えていません。医師として実践面でも重要なので、ぜひ予習・復習を欠かさず勉強して下さい。

科目名：腫瘍学2（医科第3学年前期／必修）  
履修者数：128 配付数：113 回収数：45 回収率：39.8%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.2	3.8	3.2	3.8	3.9	3.6	3.9	3.1	3.2	3.5	3.4	2.8	3.2

**\*評価に対するコメント**

腫瘍学2担当教員

全評価項目の平均点は3.5であり、よい評価だったと思います。各評価項目をみると、出席率が高かったこと、履修要綱やガイダンスにより履修目的が明瞭であったこと、履修主題に沿って講義がなされていたこと、が良かった点と考えられます。一方、予習・復習をしてきた学生は少なく、また、講義内容が難しい、試験の難易度が高いなどの意見も出ておりました。学生の自主的な勉強意欲を促すことで、講義の理解を深める必要があると考えられます。以上の評価結果をふまえ、講義内容を網羅した当大学オリジナルの教科書作成などの工夫により、さらに充実した腫瘍学講義を企画していきたいと思っております。

科目名：生殖発達医学（医科第4学年前期／必修）  
履修者数：127 配付数：118 回収数：42 回収率：35.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.2	4.1	4.0	3.5	4.1	3.9	4.0	4.1	3.9	3.9	3.9	4.1	3.5	4.0

**\*評価に対するコメント**

生殖発達医学担当教員

生殖発達医学は広範囲な領域を網羅しなければならず、指摘があったように講義のバランスを取ることが大変難しい状況ですが、試験時間が短いなどの他の指摘事項もあわせ改善にむけ検討していきたいと思います。試験の公開、異議申し立てに関しては現在教育センターで検討されておりますので、成績評価の厳格化が図られていくものと思います。また、予習、復習の質問で昨年に比べ点数が低い結果が気になります。講義を十分理解し、実質的なものにするためには皆さんの努力も必要です。理解が難しい場合はオフィスアワーなど活用してください。

科目名：法医学（医科第4学年前期／必修）  
履修者数：127 配付数：123 回収数：80 回収率：65.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	4.3	4.2	3.5	4.2	4.3	4.3	4.4	4.4	4.5	4.4	4.3	4.5	4.5

**\*評価に対するコメント**

法医学担当教員

法医学は、基礎医学の中の社会医学に分類され、臨床医として、検案（検屍）業務を依頼された際の基本的知識、外因死に関わった際の注意点を理解することを目標としている。学生からは、講義後の確認テストがためになったとの意見があり、授業評価の評点は平均4点以上と学生サイドからの評価は好評であったと言えよう。臨床現場で実際に法医学的思考が必要となった時に、的確な問題解決能力を発揮して頂きたい。

科目名：看護社会論（看護学科第1学年前期／必修）  
履修者数：60 配付数：60 回収数：56 回収率：93.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.1	4.9	4.0	2.6	4.1	4.1	4.1	4.4	4.3	4.4	4.1	4.4	4.2	4.5

**\*評価に対するコメント**

看護社会論担当教員

例年どおり、ガイダンス1コマを経て、2コマ続きの授業7回で展開し、毎回、前半40分程度は担当教員（筆者）による講義、次の40分程度は関連DVDの視聴、最後の30分程度はまとめの作文にあてた。評価は授業中の積極的な発言と作文の内容によって行った。学生の将来展望に資する内容となるよう心掛けた。学生の評価点と担当教員の手応えとが一致している。入門講義としてはまずまずの出来であったと自負している。

科目名：情報リテラシー（看護学科第1学年前期／必修）  
履修者数：60 配付数：56 回収数：53 回収率：94.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.4	4.7	3.9	1.9	3.7	3.9	3.8	4.1	3.8	4.0	3.9	3.7	3.9	4.0

**\*評価に対するコメント**

情報リテラシー担当教員

この教科は、予習や復習を必要としない授業を行っています。そのため、問1、4の回答は低い評価値になるかもしれません。問3での回答が"4"や"5"とする履修者が75%を占めているように、とても集中して受講している印象を受けました。また出席率（問2）は非常によく熱心に勉学していました。昨年、一昨年に比べ受講姿勢とリテラシー技術の向上がうかがえました。パソコン操作に慣れない履修者もよく質問をし、じっくり取り組んでいましたので上達の様子が確認できました。

科目名：看護学概論（看護学科第1学年前期／必修）  
履修者数：60 配付数：57 回収数：55 回収率：96.5%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.7	4.0	3.8	4.5	4.3	4.3	4.6	4.2	4.3	4.1	4.3	3.7	4.2

**\*評価に対するコメント**

看護学概論担当教員

評価は予習と復習に関するものが3台と他より低値でした。看護の初学者である1年生がより学びを深めるために必要な事前・事後課題の提示法を一層工夫したいと思います。概論はどうしても抽象的な授業内容になるため、具体例の引用や図解により理解しやすくする工夫を増やします。また教員に質問するなど、理解を深めるための学生側の主体性も今後期待します。

科目名：看護基礎物理（看護学科第1学年前期／必修）  
履修者数：60 配付数：58 回収数：56 回収率：96.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.9	4.3	3.4	2.3	3.3	3.9	3.8	3.9	3.9	3.7	3.8	3.5	3.9	3.8

**\*評価に対するコメント**

看護基礎物理担当教員

昨年よりもわかりやすく教えたつもりですが、評価は昨年よりも下がりました。

下がった原因として考えられるのは、内容を少し詳しく説明したことです。

説明を出来るだけ簡潔にしなければならないと考えております。

科目名：生命科学（看護学科第1学年前期／必修）  
履修者数：60 配付数：59 回収数：37 回収率：62.7%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.1	4.2	3.7	2.6	4.0	3.9	4.1	4.1	3.9	4.0	4.0	4.1	3.8	4.1

**\*評価に対するコメント**

生命科学担当教員

本年度の総合評価はここ数年の評価はほぼ一定している。ただ、問13は3.8とやや低いことから、試験の内容やレポートの妥当性に関して改善すべき項目であると考えられた。また、講義内容に対するコメントでは、看護の視点を取り入れてあるため有益であったとするものが多く、学生には講義内容は概ね好評であったと判断される。

科目名：医療史・医療哲学（看護学科第1学年前期／必修）  
履修者数：60 配付数：60 回収数：36 回収率：60.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.9	4.3	3.6	2.5	3.9	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	4.1	3.8	3.9	3.8

**\*評価に対するコメント**

医療史・医療哲学担当教員

「看護社会論」担当教員が同様の形式・方法で行っている講義にもかかわらず、同科目と比べ学生による評価はかなり低かった。哲学や歴史学が絡む講義で、内容が抽象的・観念的になりがちだったために、低評価に繋がったのであろう。この科目は来年度から看護の哲学・歴史に造詣が深い緩和ケア診療部の阿部泰之助教が担当する。臨床現場の豊富な経験を踏まえた具体的・実践的な講義を展開してくれるものと期待している。

科目名：発達心理学（看護学科第1学年前期／必修）  
履修者数：60 配付数：58 回収数：54 回収率：93.1%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.1	4.4	3.9	3.3	3.8	4.0	3.9	4.1	3.8	3.9	3.8	3.9	3.3	4.0

**\*評価に対するコメント**

発達心理学担当教員

学生自身についての評価では、予習と復習の評価が2.1、3.3と低く、かなり改善の余地があろう。また、科目構成と内容についての評価は3.8から4.1、全体の満足度は4.0にとどまった。これは、入学直後の学生にとって、授業やレポートの内容のレベルが全体的に高すぎたためであると思われる。今後は、授業の進行や指導力を改善してゆく必要がある。

科目名：看護化学（看護学科第1学年前期／必修）  
履修者数：60 配付数：59 回収数：58 回収率：98.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.1	4.2	3.8	3.0	3.7	3.4	3.4	3.6	2.7	2.8	3.	2.8	3.5	3.2

**\*評価に対するコメント**

看護化学担当教員

例年、化学Ⅰはほぼ全員履修済みであるが、化学Ⅱと生物Ⅱの未履修者はいずれも半数程度であったため、高校の化学と生物が重複する分野の復習を中心に（本年度は物理分野と数学Ⅲの分野との重複部分の解説も若干交えて）実施した。また、化学Ⅰ未履修者を含め、希望者への補講・質問対応に努めた。定期試験の平均点と評価項目は例年並みで、他の評価項目のポイントも全般に当教室が担当する他科目と同等であった。しかし自由記載のコメントから、高校での学習到達度が不十分で講義内容の理解に困難を感じている学生が少なくないことが分かった。さらに受け身の学習態度で問題ないと誤解している学生が複数名いることが分かった。これは看護学生としての自覚がまだ不十分であることを象徴していると思われ、要注意である。今後も到達目標と練習問題を頻回明示し、看護学生としての自覚を促しながら、基礎学力および学習意識を伸ばしてゆく。

科目名：精神看護学Ⅰ（看護学科第2学年前期／必修）  
履修者数：60 配付数：52 回収数：38 回収率：73.1%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.3	3.6	3.4	2.9	3.7	3.7	3.7	3.9	3.8	3.7	3.7	3.3	3.4	3.5

**\*評価に対するコメント**

精神看護学Ⅰ担当教員

21世紀は心のケアの時代と言われており、精神看護学Ⅰでは心のケアの重要性を認識し、精神の健康の保持増進、心の発達、精神状態に影響を受けた個人の生活行動、人間関係、また、看護全般に活用しうる精神看護学の知識や技術について学んでいます。

心の看護やケアのニーズは増加の一途を辿っていますし、看護の役割はとて大きいので、内省や自学自習の努力を忘れないで勉学に励んでいただきたいと願っています。

科目名：統計学（看護学科第2学年前期／必修）  
履修者数：60 配付数：48 回収数：44 回収率：91.7%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.9	4.4	3.5	2.4	3.8	4.0	4.0	4.2	3.7	3.5	3.8	3.5	4.2	4.1

**\*評価に対するコメント**

統計学担当教員

今年度は、座学とコンピュータ実習をブレンドした編成を組むことができました。

座学では毎回小テストを実施しましたが、正解の数値に合うまで、何度も自分で計算をくり返す、職業意識の高い学生グループが見られたことに感心いたしました。

全体評価は「4.1」とまあまあの評価をいただきましたが、講義中、フォローアップでの意見を参考にして質を高めていきます。

科目名：看護過程論（看護学科第2学年前期／必修）  
履修者数：59 配付数：59 回収数：48 回収率：81.4%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
4.2	4.9	4.5	4.6	4.5	4.4	4.3	4.5	4.2	4.3	4.3	4.3	3.6	4.3

**\*評価に対するコメント**

看護過程論担当教員

課題の量を28名は適切・やや適切と回答しています。「自分の思考プロセスを文章で表現する」ことによって科学的思考のスキルである看護過程を学ぶ重要性が認識された結果と考えています。提出物の詳細な添削を求めた記載がありました。思考のプロセス、すなわちアセスメントに至る知識と論理的思考力に基づいた自己の考えの記述に対して、教員はその内容を点検し、優先順位をつけてコメント・口頭での指導をしています。不明な点はぜひ直接教員に質問をしてください。また、事前に課題提出のタイミングは提示していますのでスケジュール管理は自己責任でお願いします。

科目名：疫学Ⅰ・保健統計Ⅰ（授業評価を同時に実施）（看護学科第2学年前期／必修）  
履修者数：59 配付数：54 回収数：54 回収率：100.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.3	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.9	3.7	3.5	3.6	3.3	3.3	3.3

**\*評価に対するコメント**

疫学Ⅰ・保健統計Ⅰ担当教員

学習内容の要点を図や表で示したハンドアウトは事前に配付し、予習として教科書を読んで空欄に記入した上で、授業に臨むこと、そして復習して学習成果物を提出することで、「予習・授業・復習」の定着を目指しました。課した課題は、自ら「予習・授業・復習」を定着させていけば、容易なことばかりでした。また、オッズ比、相対危険、寄与危険、死亡率の年齢調整の計算課題は、いずれも四則と平方根の計算で済むものでした。疫学・保健統計の知識とスキルは、2年の公衆衛生論、3年の看護研究、そして4年の卒業研究（いずれも必修科目）に必要です。

科目名：病態学（看護学科第2学年前期／必修）  
履修者数：59 配付数：55 回収数：46 回収率：83.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.1	3.7	2.8	2.4	3.7	3.9	4.0	3.9	3.5	3.0	3.3	3.1	3.8	3.3

**\*評価に対するコメント**

病態学担当教員

病態学（病理学）は最初に具体的な疾病に触れる科目であり以後に続く様々な疾患の診断や治療を理解する上で基礎になる学問である。その科学的な理解は実践の場で日々生ずる問題の解決に対して大きな助けとなるものである。習得すべき知識や考え方は多岐にわたるが得られるものは大きい。「異常」の理解には「正常」の理解が必須であり解剖、生理、生化学、微生物学の最低限の知識を整理しておく必要がある。必要最小限のことは教科書に書いてあり、講義ではそうなる根拠やさらに興味を引くような内容を紹介している。それをきっかけとしてさらに学習したり不明の部分を質問してくれることを期待しているが近年そういった学生は少なくなっているように感じる。以前は少なくとも試験前には質問に来る学生がいたがそれもなくなった。常に知的好奇心を持ち続けることを望む。プリント配布など来年度より改善すべきは対処する。

科目名：家族看護学（看護学科第3学年前期／必修）  
履修者数：70 配付数：67 回収数：61 回収率：91.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.3	3.5	3.2	3.0	3.0	3.0	2.9	3.0	2.4	2.9	2.3	3.0	2.6

**\*評価に対するコメント**

家族看護学担当教員

学生は「予習」2.6、「授業への出席」4.3、「授業中の努力」3.5と評価している。教員評価は「内容は理解しやすいものであったか」「今後の学習意欲を増すものであったか」の評価項目が低い。授業中の努力として、どのようなことを具体的にやっているのでしょうか？

また学生の皆さんは、何のために教員評価を行っていますか？もし教員の成長・進歩を願うお気持ちがあるのでしたら、ぜひ授業中に直接フィードバックして欲しいと思います。なぜなら講義・学習は、学生—教員が相互に作り上げていくものであるから（他大学での教育体験から実感）です。

科目名：保健福祉行政論Ⅱ（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：70 配付数：67 回収数：66 回収率：98.5%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	4.1	3.3	2.8	3.4	3.6	3.5	3.5	3.4	3.3	3.3	3.1	3.2	3.4

**\*評価に対するコメント**

保健福祉行政論Ⅱ担当教員

的確な評価有難うございます。試験範囲については、教科書・国民衛生の動向・過去の国家試験問題を参考にしたところ。出題範囲が広く、問題作成の都合上焦点が絞りきれない感はありますが、幅広く学習して戴くことが必要であります。講義に際してのポイントを示すプリントについては、基本的には教科書・国民衛生の動向を参考にして戴くことを基本にしても必要性を感じたところ。私事ではありますが、講義に際して財布を教室に落としました。その財布をすぐに事務に届けていただき感謝したところ。さすがに命に関与する医科大学の学生さんの倫理観の素晴らしさを経験させていただきました。御礼に「白い恋人」を提供させていただきました。有難うございました。

科目名：地域保健看護学Ⅱ（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：70 配付数：69 回収数：65 回収率：94.2%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.5	4.4	4.1	4.0	4.3	4.2	4.1	4.3	4.0	4.1	4.1	4.1	3.7	4.1

**\*評価に対するコメント**

地域保健看護学Ⅱ担当教員

地域住民の一人ひとりが看護の対象であることはわかる……しかし、個人ではなく「地域全体が看護の対象である」というと広すぎて何やらよくわからない、そのことをわかりやすくみえるようにするのが私たち教員の使命であると考えます。そのためには受身の講義ではなく、問いかけを多く、また宿題も多くさせていただきました。広い視野で予防の段階から人々の健康を考え、光の当たらない声なき声に耳を傾け、だれもが安心できる地域づくりができるような看護職になって欲しいと思いながら授業を進めました。全体的に高い評価を得られましたが、重要ポイントの強調が十分ではなかったということで今後は工夫していきたいと思っております。

科目名：がん看護学（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：70 配付数：67 回収数：21 回収率：31.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.7	4.5	3.7	3.4	3.8	4.0	3.7	3.9	3.7	3.6	3.6	3.8	3.8	3.7

**\*評価に対するコメント**

がん看護学担当教員

「がん看護学」は、平成23年度から開講し、3年目を迎えました。国民の3人に1人ががんで亡くなり、生涯で2人に1人ががんに罹患する時代です。皆さんが積極的に出席され、がん看護学への関心の高さは例年感じているところです。今回の回収率は31.3%であり、皆さんの意見を代表しているとは限りませんが、前年度より履修主題間での内容の重複などの改善への取り組みが評価されました。今後もがん看護学の豊かな内容を限られた時間の中で理解しやすく工夫し、学習意欲を高める取り組みを継続していきます。

科目名：成人看護学Ⅱ（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：56 回収数：18 回収率：32.1%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.6	4.4	3.8	3.7	4.1	4.1	3.9	4.1	3.7	3.6	3.5	3.9	3.5	3.6

**\*評価に対するコメント**

成人看護学Ⅱ担当教員

この科目は、主な臓器別における周術期看護である。手術を受ける患者の特徴と看護援助を学ぶためには、既存科目の疾病論及び病態学、薬理学を理解することが重要である。単元ごとにそれらを含めた課題の提出を求め講義を行った。課題の内容は、臨床実習で必要とされる知識であるが、学生は課題の意図するところが捉えられず、学習に活用できなかったようである。今後はその点を考慮し講義を行っていく必要がある。

科目名：国際保健看護論（看護学科第4学年前期／必修）

履修者数：70 配付数：70 回収数：53 回収率：75.7%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.2	4.4	3.5	2.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.0	3.8	3.8	3.6	4.0	3.8

**\*評価に対するコメント**

国際保健看護論担当教員

国際的視点で保健・看護について考える事の必要性を、各種事例、新聞記事などを通して理解が深められるように、教材をいろいろ工夫してみました。しかし、授業評価の結果から学生の皆さんが予習・復習の意欲が高まり主体的に授業に取り組めるような授業方法の改善が必要ではないかと考えています。

科目名：医療安全論（看護学科第4学年前期／必修）

履修者数：70 配付数：68 回収数：54 回収率：79.4%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.2	4.5	3.7	2.7	4.0	4.1	4.2	4.3	4.3	4.2	4.2	4.0	4.2	4.3

**\*評価に対するコメント**

医療安全論担当教員

医療安全論はインフォームド・コンセプトを含め医療安全の基本的な考え方等について視聴覚教材や資料を用いて教授し、グループワークによる事例検討も実施した。

学生による授業評価は、科目構成・科目内容が4.0～4.3、総合評価も4.3と満足度が高く、課題レポートにおいても医療における安全の重要性と看護の責任・責務を強く感じたことを述べている。また、授業が第4学年の臨地看護学実習がほぼ終了した時期の実施であり、理解を深める助けになっていると考える。

## 実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。 問2 実習（演習）に毎回出席しましたか。 問3 実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習（演習）計画	問4 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問5 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。 問6 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。 問7 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。 問8 指導担当者間の連携は適切でしたか。
実習（演習）内容	問9 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。 問10 事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。 問11 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。 問12 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。 問13 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。 問14 実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
実習（演習）環境	問15 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。 問16 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。 問17 学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問18 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）      ④ やや思う（良い）  
③ どちらとも言えない（普通）      ② あまりそう思わない（あまり良くない）  
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：基礎生物学実習（医学科第1学年前期／必修）  
履修者数：114 配付数：112 回収数：102 回収率：91.1%

### \*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.7	4.9	4.6	4.4	4.6	4.5	4.7	4.6	4.4	4.6	4.4	4.3	3.9	4.3	4.5	4.6	4.5	4.5

### \*評価に対するコメント

基礎生物学実習担当教員

総合ポイントは4.5で、全体としてほぼ満足という評価でした。入学して1カ月で始まるこの実習は、細胞や組織の顕微鏡観察、動物の解剖と発生、酵素反応、DNAの電気泳動、味覚テストなど、基礎医学的テーマで展開されます。実習は初めてという学生が殆どで戸惑いや失敗もあったようですが、全員がどのテーマにも興味を持って取り組んでくれたようです。ただし、問13のポイント（3.9）が示すように、実験・観察の結果をレポートにまとめることに負担を感じているようです。レポートの書き方・まとめ方についてはこれまで簡単な説明で終わることが多かったのですが、これからは別途説明の時間を設けるなど改善が必要と考えています。今年度は講義実習棟の改修工事のため実習をプレハブで行いました。不便をおかけしましたが、皆さんの理解と協力のもとに支障なく終了することができました。感謝いたします。

科目名：医用物理学実習（医学科第1学年前期／必修）  
履修者数：113 配付数：112 回収数：104 回収率：92.9%

### \*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.4	4.9	4.7	4.2	4.7	4.2	4.2	3.8	4.1	4.3	4.0	3.9	3.7	3.7	4.2	4.4	4.3	4.2

### \*評価に対するコメント

医用物理学実習担当教員

総合評価は、昨年より0.1高い4.2でした。また、項目別でも昨年以上の評価を頂きました。今後の目標は、問8、12、13、14の項目で4以上の評価を得ることです。一昨年度3.8まで上昇した問1（予習に関して）の項目がこの2年間で徐々に下がってきたのが気になります。実習に臨む際、最低一度は実習テキストに目を通して欲しいものです。今後も、今回の評価に満足することなく、更なる改善に努めていきます。

科目名：免疫学実習（医学科第2学年前期／必修）  
履修者数：102 配付数：89 回収数：60 回収率：67.4%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.6	5.0	4.5	4.3	4.5	4.5	4.6	4.4	4.3	4.3	4.1	4.3	4.0	4.1	4.3	4.3	4.4	4.4

**\*評価に対するコメント**

免疫学実習担当教員

免疫学実習は、微生物学、法医学、寄生虫学、検査輸血部ならびに免疫病理の5講座からなる、多くの先生方で行われております。各講座の先生方のご協力に熱く御礼申し上げます。評価は真摯に受け止め、今後の改善に役立てたいと考えております。

科目名：生化学実習（医学科第2学年前期／必修）  
履修者数：102 配付数：99 回収数：99 回収率：100.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.8	4.8	4.6	4.4	4.4	4.3	4.2	3.8	4.3	4.6	4.2	4.2	3.8	3.8	4.1	4.5	4.4	4.3

**\*評価に対するコメント**

生化学実習担当教員

先ず、稀に見る数多の建設的なコメント（86件）に感謝致します。内訳は、機器・消耗品の不調・不足が24件で最多、次いで熱心な指導で充実した内容だったが18件、以下8日目の内容過多10件、チューター間でのばらつき9件と続きます。  
予算枠の制限はありますが、コメントを生かし、より良い実習を目指して参りたいと思います。  
一つ気になったのは横並び至上主義のような風潮で、チューターは各班毎の進捗・習熟状況を観て最善の指導に努めているのですが、なんでうちらだけ余分なことをさせられるのかというコメントが散見されたことです。ここは同じ授業料でより多くの実験実習ができて良かったとなるべき所、最低限の保証はするができる人にはどんどんやってもらいたいという大学スタッフの姿勢は理解して頂きたいと思います。  
これは実社会・臨床でも同じこと、結局できる所にどんどん仕事は集まって来るものです。そして何年か経つと大きな差になってきて、やがて諸君が医師を志した初心を反芻し、容易からぬ道をも必要とあらば、あるいは寧ろ進んで、行って頂きたいと存じます。

科目名：組織学実習（医学科第2学年前期／必修）  
履修者数：103 配付数：100 回収数：81 回収率：81.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.5	4.9	4.7	4.6	4.6	4.2	4.6	4.5	4.5	4.6	4.3	4.1	3.8	4.3	4.3	4.4	4.4	4.3

**\*評価に対するコメント**

組織学実習担当教員

組織学実習では、プレテスト、レポート、スライドテスト、出席の4つを総合して成績評価を行うため、受講生には、予習・復習も含め、かなりの学習量が要求される。それが問1-3（学生の自己評価）での数値の高さ（ほぼ5点）に現れており、我々教員も、今年度の学生の努力を高く評価している。幸い、今年度の受講生にも実習の目的や意義を良く理解していただけたのか実習企画全体に対する評価も悪くないので、来年以降も実習方法、成績評価方法を変えずにこの科目を進める予定である。

科目名：骨学実習（医学科第2学年前期／必修）  
履修者数：102 配付数：88 回収数：64 回収率：72.7%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.2	4.7	4.3	4.0	3.5	3.8	4.3	3.8	3.8	4.2	4.0	4.2	4.3	4.2	4.1	4.4	4.4	4.2

**\*評価に対するコメント**

骨学実習担当教員

本年度は講義実習棟改築のため第1実習室での実施となったが、空調完備により実習環境は大幅に改善された。総合評価については4.2と昨年度とほぼ同様であり一定の評価が得られたと考えている。項目別では教員間の連携について0.4ポイント減となり、昨年度より学生が不満に感じている結果となった。次年度はこれまでより教員間の連絡を密にして連携を高めていきたいと考えている。

科目名：微生物学実習（医学科第3学年前期／必修）  
履修者数：121 配付数：112 回収数：82 回収率：73.2%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.5	4.8	4.4	4.5	4.6	4.4	4.6	4.5	4.5	4.4	4.2	4.3	4.2	4.2	4.4	4.4	4.5	4.4

**\*評価に対するコメント**

微生物学実習担当教員

本実習では、これまで、実習オリエンテーションで学生諸君に「実習内容の事前確認」をするように指導してきましたが、これを確実に実践してもらうために始めた「予習レポート提出」方式が2年目となりました。その結果、評価項目1の「予習」は平均点が4.5と、ほとんどの学生は予習してくるようになりました。さらに、今年は、予習レポートがまとまってきたので、学生の予習ができていると考えて、実習手技等に関する説明を大幅に短縮しました。それによって例年みられる「説明が長過ぎる」とのコメントはほとんど見られませんでしたし、学生がスムーズに実習に集中できたと感じました。その結果として、実習全体の満足度は4.4と高く、ほとんどの学生が本実習に満足したことがみてとれました。

科目名：寄生虫学実習（医学科第3学年前期／必修）  
履修者数：121 配付数：120 回収数：119 回収率：99.2%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.4	4.6	4.6	4.4	4.6	4.4	4.6	4.5	4.5	4.5	4.2	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4

**\*評価に対するコメント**

寄生虫学実習担当教員

寄生虫学実習では、実物の観察とスケッチ、並びに動物実験によって、病原体や宿主の病態が理解できるように実習を進め、出席日数・レポート・試験によって成績評価をしています。実習の学生評価は概ね高評価です。実習課題や試験は学生にとって適切なものであると考えています。

科目名：病理学実習（医学科第3学年前期／必修）  
履修者数：121 配付数：103 回収数：60 回収率：58.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.2	4.8	4.5	4.3	4.5	4.1	4.4	4.2	4.3	4.3	4.0	3.9	3.7	3.9	3.9	4.2	4.3	4.1

**\*評価に対するコメント**

病理学実習実習担当教員

改修工事のため実習室が使えるかどうか懸念されたが、幸い、例年通り顕微鏡実習を行うことができた。今回も記載欄には腫瘍病理担当実習でのスケッチの多さに対する不満が散見されたが、問3の平均が4.5であることに現れているように、全体的には一所懸命取り組んでいるように思われた。「まじめに取り組める環境でよかった」、「遅くまで実習に付き合っただきありがとうございました」などのポジティブなコメントもみられた。色あせた標本が多い、学生当たりの標本配布数が少ないとの指摘があったことは反省しなければならない。来年度は標本の更新およびバーチャルスライドの導入などにより改善したいと思っている。なお、昨年に比べ涼しい日が多かったため、実習環境についての苦情は少なかった。

科目名：生理学実習（医学科第3学年前期／必修）  
履修者数：121 配付数：119 回収数：107 回収率：89.9%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.7	4.7	4.4	4.3	4.6	4.4	4.3	4.2	4.3	4.4	4.1	4.0	3.5	4.2	3.9	4.1	3.9	4.2

**\*評価に対するコメント**

生理学実習担当教員

生理学実習・演習は、生理学を臨床的な側面からも深く理解できるように、循環・呼吸・神経病態内科・保健管理センターおよび脳機能医工学研究センターの協力を得て行っている。本年度の課されたレポートの量に対する評価は3.5と低く、多くの学生がレポートの量が多いと感じている。それにもかかわらず、総合評価は4.2と比較的高い評価を得た。自由記載の欄で7名から楽しい実習であったと評価されたのは、担当した全教員の励みとなる。実習テキストを早く配布することなど、対応可能な指摘もあるので、来年度もさらに改善していきたい。

科目名：薬理学実習（医学科第3学年前期／必修）  
履修者数：121 配付数：121 回収数：54 回収率：44.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.2	4.9	4.6	4.4	4.6	4.3	4.7	4.5	4.4	4.5	4.4	4.4	4.2	4.3	4.5	4.5	4.5	4.5

**\*評価に対するコメント**

薬理学実習担当教員

薬理学実習は、生体に薬物を投与し、どのような作用が現れるかを実際に目で見て観察し、得られた結果から妥当な結論を考察することにより、講義で得た知識を定着させることを目的としている。実習では、予想通りの結果を得ることができない場合もあったが、うまくいかなかった場合、その原因は何か？そう考えることを是非心がけて頂きたいと思う。多くの分野で予想と違った結果から新しい知見を得ることが多いからである。今年の評価は、すべてにおいて高いものでした。この実習が諸君の知識定着の一助となっていれば幸いである。今後も、より充実した実習を目指すために、いろいろな意見を遠慮なく頂きたいと思っている。

科目名：基礎看護技術学Ⅰ（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：41 回収率：68.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.0	4.9	4.7	4.5	3.9	4.3	4.4	4.1	4.5	4.6	4.0	4.0	3.1	4.1	4.3	4.4	4.1	4.3

**\*評価に対するコメント**

基礎看護技術学Ⅰ担当教員

結果から学生の皆さんは、事前に配付された資料を読み真面目に積極的に講義演習に参加したことがわかりました。この講義演習は全体として満足できるものであったようです。しかし、事前学習が不十分であれば演習は終了時間に終了しないことがあるのはやむを得ません。また、看護職になるためには膨大な知識や技術を身につけなければならない、レポートの量や内容が多くなるのもやむを得ないことです。入学当時と比較するとレポートの内容は徐々にレベルが上がってきています。これからも計画的、積極的に学習を進めていくよう期待します。

科目名：基礎看護技術学Ⅲ（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：39 回収率：66.1%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.4	4.9	4.6	4.5	4.5	4.2	4.1	3.4	4.3	4.4	4.0	3.9	3.6	4.1	4.2	4.3	3.9	4.2

**\*評価に対するコメント**

基礎看護技術学Ⅲ担当教員

回収率が66.1%とこれまでにない低さです。これは授業評価の時期（定期試験時）が影響していると考えています。来年度は授業評価の実施時期を検討したいと思います。全体としては満足できる4.2でした。一方、教員間の連携、提出物の量や内容は低い評価でした。自由記載が少なく詳細がわかりませんが、演習の前には必ず教員間で打ち合わせを行っています。また、提出物に関しては今年度から学習要項の中に学習スケジュールを明示し、いつ、どのような課題があるのか提示しました。課題はみなさんが看護職になるために必要な知識・技術を身につけることを目的としています。計画的に学習することで少しでも負担を減らせるよう学習スケジュールを提示しました。十分に活用されなかったようで残念です。

科目名：実践看護技術学Ⅱ（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：54 回収数：46 回収率：85.2%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.2	4.4	4.1	3.9	4.3	4.3	4.2	3.9	4.2	4.0	3.7	4.0	3.9	3.8	4.0	4.2	4.2	4.1

**\*評価に対するコメント**

実践看護技術学Ⅱ担当教員

実践看護技術学Ⅱは、2009カリキュラムの第3学年次において看護の実践力を高めるための演習科目として、小児、母性、精神の3領域、2単位60時間で実施されました。学生の総合評価は4.1と、昨年に比して上昇していましたが、事前学習の平均が最も低く3.2でした。今後は、本科目で演習した看護の実践的技法をさらに確認し、演習の体験が臨地実習に活かされるよう努力していただきたいと思います。

## 臨地看護実習企画に対する学生評価

実習計画	問1 実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 問2 指導教員と実習指導者の連携はとれていた。	
実習内容	問3 実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 問4 実習中に課せられた記録・提出物の量は適切であった。 問5 指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 問6 教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 問7 受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 問8 カンファレンスは実習に役立つ内容であった。	⑤ 強くそう思う (非常に良い) ④ やや思う (良い) ③ どちらとも言えない (普通)
実習環境	問9 教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった。 問10 安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。	② あまりそう思わない (あまり良くない)
総合評価	問11 実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 問12 この実習は全体として満足できるものであった。	① 全くそう思わない (良くない)

科目名：基礎看護学実習Ⅰ（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：57 回収率：95.0%

### \*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.7	4.0	4.5	4.1	4.8	4.6	4.1	4.6	4.6	4.7	4.5	4.6

### \*評価に対するコメント

基礎看護学実習Ⅰ担当教員

すべての問いが4.0以上の高い得点でした。特に指導教員や実習指導者から適切な助言が得られたのは4.8と高い得点であり、熱心にご指導いただいた実習指導者および臨床の看護師さんに感謝いたします。反面、指導教員と実習指導者の連携が不足と感じた場面があったようです。各実習病棟とは事前に打ち合わせを行い、実習開始後も皆さんの目標達成ができるように連絡を取りながら進めています。この授業評価からは詳細なことはわかりません。今後、実習でこのようなことがあった場合は、なるべく早く指導教員へ連絡していただくことで、改善が可能と考えます。

科目名：在宅看護学実習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：18 回収率：29.5%

### \*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.3	2.9	3.9	4.3	4.0	3.9	4.3	4.6	4.1	4.8	3.8	3.8

### \*評価に対するコメント

在宅看護学実習担当教員

今回の実習では、「問2. 担当教員と実習指導者間の連携」についての課題が挙げられました。しかし同時に、実習指導者には恵まれ学びが多くあったことも挙げられています。即ち、その非は、担当教員側にあったものと推察されます。このことを真摯に受け止め、より綿密な事前・巡回時のすり合わせ、教員も皆さんとともに学ぶ姿勢で努力していきます。

関連して、回答者から寄せられた自由記述を読みますと、両者の看護観の違いを指摘する意見もありました。在宅に行きますと、多様な訪問看護の利用者さん、家族、そして訪問看護師、教員がいることに気づきますね。このような人の多様さ（多様でいいのです！）を理解し、是非、皆さんの唯一無二の看護観の構築に役立ててください。

ご意見をありがとうございました。

科目名：母性看護学実習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：36 回収率：59.0%

### \*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.7	4.9	4.8	4.6	4.9	4.9	4.7	4.6	4.8	4.9	4.7	4.9

### \*評価に対するコメント

母性看護学実習担当教員

母性実習評価に対するコメント：昨年の実習評価が生かされ実習指導に反映した内容と考えます。

母性実習では、実習記録を他領域と異なり、速い展開に即したシンプルな記録を使用していますが、少しの改善の余地を残し定着したと考えます。今後も授業との対応をより確実にし、学生が対象者により良いケアを提供できるよう援助したいと考えます。

科目名：小児看護学実習Ⅱ（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：59 回収数：19 回収率：32.2%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
3.8	3.7	4.0	4.1	3.8	3.5	3.8	3.8	3.7	4.1	3.7	3.7

**\*評価に対するコメント**

小児看護学実習Ⅱ担当教員

評価は全項目が3.0以上であり、学生にとって概ね満足 of いく実習であったと考えます。

評価が高いのは、「問10. 安全と事故防止に対する指導と配慮」でした。これは、自ら危険を回避することが難しい小児に関わる者の責務と、学生自身が感染・事故防止できるように教育した結果と考えます。次に、「問4. 実習中に課された記録・提出物の量」も高い評価でした。学生が記録・提出物に追われるような実習は本意ではありません。「課された」ものに止まらず、大学生として主体的・積極的な姿勢で実習に取り組むことを強く望みます。

科目名：精神保健看護学実習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：21 回収率：34.4%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.3	4.8	4.5	4.7	4.5	4.7	4.2	4.3	4.4	4.7	4.0	4.3

**\*評価に対するコメント**

精神保健看護学実習担当教員

精神保健看護学実習は、旭川医科大学病院（病棟・外来）及び指定就労継続支援（B型）事業所で行いました。実習目標は、患者の個性や人間関係を重視し、コミュニケーション技術を用いて看護することです。全体評価が4.3、全平均4.5と高いことから、実習目標を達成し学習成果が得られていたと思われます。この実習での学びが今後の実践に活かされることを期待しています。

科目名：成人看護学実習Ⅱ（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：25 回収率：41.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.6	4.8	4.6	4.3	4.7	4.5	4.5	4.3	4.6	4.6	4.4	4.5

**\*評価に対するコメント**

成人看護学実習Ⅱ担当教員

成人看護学実習Ⅱは、呼吸器・循環器センターと消化器センターの外科病棟、手術部とICUなどで急性期、主に周手術期の看護を実習しています。回収率が41%と低いところは気になりますが、評価の全体平均は、約4.5点と例年より0.5ポイント上昇しており、学生にとって満足感の高い実習となっています。実習環境に対する学生の評価も高いので、この状況が継続できるようにこれからも関係部署との協力を得て実習を行っていきたいと思います。

## インフォメーション

平成26年

- 4月7日（月） 平成26年度 入学式（10時00分）
- 8日（火） 医学部医学科・看護学科新入生合同研修会（第1日目）
- 9日（水） 医学部医学科・看護学科新入生合同研修会（第2日目）
- 10日（木） 学生定期健康診断 医学科第4学年，看護学科第2学年
- 16日（水） 学生定期健康診断 医学科第1学年，看護学科第3学年
- 22日（火） 学生定期健康診断 医学科第3学年，看護学科第1学年
- 5月14日（水） 学生定期健康診断 医学科第2学年

※医学科第5学年・第6学年，看護学科第4学年及び大学院  
生また外国人留学生は，上記日程の都合の良い日に受診すること。

※受付けの際に，必ず学生証を提示してください。

（学生玄関ホール 受付時間 12時30分～14時30分）

## 平成25年度 解剖体慰霊式

平成25年度解剖体慰霊式が、9月18日（水）午後1時30分より本学体育館において執り行われました。

慰霊式においては、本学学生等の教育及び学術研究用に尊いご遺体を提供され、医学発展の礎石となられた方々の精霊の御霊に対して、ご冥福をお祈り

するために黙とうが捧げられ、引き続き吉田学長と学生代表（医学科第3学年山本朝日）から追悼の辞が述べられました。

その後、ご遺族とご来賓の方々並びに教職員、学生の代表からの献花が捧げられ、亡くなられた方々のご遺徳を偲びご冥福を祈念しました。



## 医学科第2年次後期編入生入学式

平成25年度医学科第2年次後期編入生入学式が平成25年10月1日（火）に事務局第一会議室におきまして執り行われました。

当日は吉田学長より編入生に対して祝辞が述べられ、新たに10名が旭川医科大学生としての第一歩を踏み出しました。



## 外国人留学生交流事業

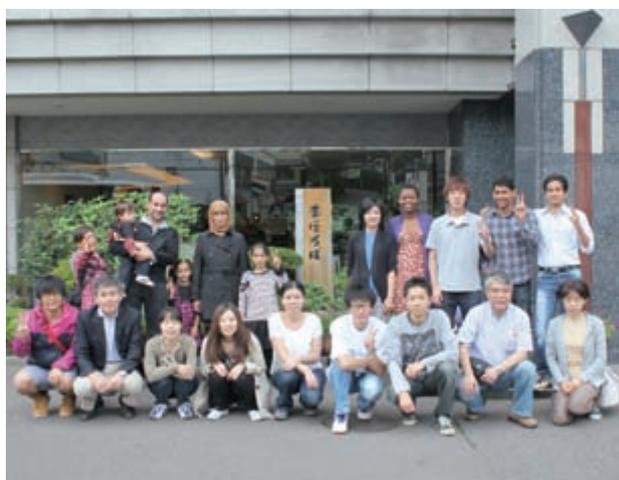
平成25年度の外国人留学生交流事業が、9月6日（金）・7日（土）の2日間の日程で、本学に留学している学生とその家族及び関係職員の7カ国、計20名が参加して実施されました。

この事業は旭川市内近郊だけではなく、北海道内の名所を外国人留学生及び帯同されている家族の方々に観てもらい、北海道の良さを再認識してもらうこととともに、様々な国から来日されている留学生同士との交流及び外国人留学生と職員との交流を図ることを目的としたものです。

当日は、午後から旭川を出発し、夕方に宿泊施設である登別のホテルまほろばに到着し、地獄谷散策にでかけました。硫黄のにおいをかきながら大迫力の景色を眺め、大地のエネルギーを感じる事が

できました。夕食の後にはカラオケを交えた交流会が実施され、普段は話をする機会の少ない留学生と教職員とも、とても和やかな雰囲気の中で情報・意見交換が行われました。

翌日は、午前中に登別伊達時代村へ行き、忍者ショーを観て、迷路などで遊び、江戸の歴史を学び、武家屋敷や忍者屋敷などの江戸時代の町並みを楽しむことができました。その後、昼食をとり、札幌市水道記念館を見学し、さまざまなコーナーを見て、触れて、体験しました。水や自然の大切さを感じ取ることができたのではないのでしょうか。夕方に本学に到着し、外国人留学生交流事業が無事終了しました。



## 北海道地区大学体育大会が開催されました

第60回北海道地区大学体育大会が、7月5日から7月21日の期間で、道内の各地で開催されました。大会の結果としましては、種目別で陸上競技女子、弓道女子がそれぞれ優勝を果たし、他の競技を併せた成績の結果、総合優勝という素晴らしい成績を収めました。男子におきましても、陸上競技第3位、弓道準優勝という活躍が報告されております。

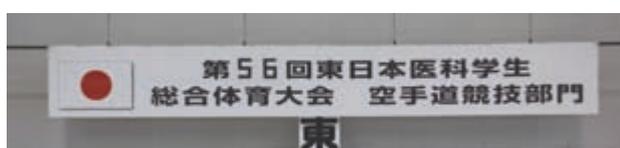
### －総合成績－

男子	優 勝	北海道教育大学旭川校
	準優勝	苫小牧駒澤大学
	第3位	室蘭工業大学
女子	優 勝	旭川医科大学
	準優勝	北海道医療大学
	第3位	北海道武蔵女子短期大学

## 東日本医科学生総合体育大会が開催されました

第56回東日本医科学生総合体育大会（夏季大会）が、7月31日から8月17日まで、弘前大学医学部が総合主管となり、北海道大学医学部、札幌医科大学と本学が主管として大会が行われました。旭川では空手道競技が大雪アリーナで開催され、男子個人形の部で中鉢敏弥君（医4年）が優勝しました。その他の競技においても、目覚ましい活躍がありましたので下表のとおり報告いたします。

競技種目名		選手名	成績
バドミントン	男子団体戦		優 勝
男子バレーボール	男子団体戦		優 勝
剣 道	男子団体戦		準優勝
柔 道	男子団体戦		準優勝
柔 道	女子団体戦		優 勝
柔 道	女子個人戦	医学科第3学年 小林亜莉沙	優 勝
柔 道	男子個人戦 60kg級	医学科第2学年 飯田 敏史	優 勝
空 手 道	男子個人・形	医学科第4学年 中鉢 敏弥	優 勝
弓 道	女子個人戦	医学科第1学年 阿部 史華	優 勝



## 音楽系団体クリスマスコンサート

平成25年12月14・15日の両日に本学の音楽系団体である室内合奏団、合唱部、ブラスアンサンブルによる恒例のクリスマスコンサートが病院玄関ホールで開催されました。

両日とも、入院されている方々やお見舞いにお越しの方々のほか出演している学生の友人たちが会場に詰めかけ、曲が終わるごとに大きな拍手を受け大盛況のうちそれぞれ終了しました。





## 平成26年度日本学生支援機構奨学生の募集について

日本学生支援機構は、優秀な学生で経済的な理由で就学困難な者に学資を貸与しています。

本学では、日本学生支援機構からの推薦依頼に基づき、出願者の種々の条件を考慮して選考を行い、日本学生支援機構へ推薦します。ただし、日本学生支援機構では奨学金貸与の種別ごとに推薦基準が定められており、その資格があっても採用枠の関係で推薦できない場合があります。

ます。

平成26年度の募集説明は4月11日（金）午後5時から看護学科大講義室において実施します。希望者は必ず出席してください。

なお、募集の時期以外に家計の急変により、学資の支弁に困難な事情が生じた場合は、学生支援課学生総務係に相談してください。

## 平成26年度看護学科学生に対する奨学資金の貸与について

本学では、看護学科に在籍する学生に対して経済的支援を行うことにより、学習に専念できる環境の整備を図るため奨学資金を貸与しています。

奨学資金の概要はつぎのとおりです。

- 貸与対象者 看護学科学生
- 貸与月額 35,000円
- 返 還 貸与を受けた期間と同等の期間内に、一括または分割で返還

○返還免除要件 被貸与者が卒業後直ちに、本学病院に常勤の看護職員として勤務した場合は、勤務月数に相当する月数分の返還を免除

貸与を希望される方は、看護学科事務室へお越しください。申請書等をお渡しします。

申請書配布 平成26年4月1日(火)～平成26年4月18日(金)

申請期限 平成26年4月25日(金)まで

なお、在籍者（休学者又は留年者は除く）についても、貸与の申請を毎年行うこととなっておりますのでご注意ください。

## 平成26年度 授業料免除について

平成26年度授業料免除及び延納・分納を希望する学生で、免除基準のいずれかに該当すると思われる者は、学生支援課学生総務係にて必要書類を受け取り、申請期限までに提出してください。

免除基準の概要はつぎのとおりです。

- 経済的理由で授業料納入が困難であり、かつ学力優秀と認められる場合
- 授業料納期前6か月以内において学資負担者が死亡、又は風水害等の災害を受け、授業料納付が著しく困難

であると認められる場合

なお、このことについては、公用掲示板にも2月10日（月）より掲示してありますので確認してください。

また、不明な点は、学生支援課学生総務係に問い合わせ願います。

申請期限 平成26年4月9日（水）

※授業料滞納者の授業料免除申請は、受理できませんのでご注意ください。

## 訃 報



本学名誉教授保坂明郎氏（享年88才）には、平成25年12月20日（金）逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、昭和50年4月本学初代眼科学教授に就任され、平成4年3月停年により退職、同年4月本学名誉教授の称号を授与されました。

この間、永年にわたって、医学の研究と学生の教育・指導にご尽力され、本学の発展に多大な貢献をなされま

した。

また、学術研究面では、不等像視に関する研究に着手し、生理光学及び眼屈折学分野の基礎を確立されました。また、不同視の研究など、停滞していた近視の分野に関する研究にご尽力されました。

医療人の養成及び医療技術の向上に貢献され、昭和57年9月北海道医師会賞・北海道知事賞を受賞、平成19年4月瑞宝中綬章を受章される等、その功績はまことに顕著でありました。

この度、生前の功績により、叙位を授与されました。

（総務課）

## 教員の異動

H25.6.30	辞	職	医学部眼科学講座	准教授	籠	川	浩	幸
H25.7.1	昇	任	医学部眼科学講座	准教授	長	岡	泰	司
H25.7.1	昇	任	病院眼科	講師	佐	藤	栄	一
H25.10.1	昇	任	医学部生化学講座（細胞制御科学分野）	講師	矢	澤	隆	志
H25.10.10	昇	任	病院耳鼻咽喉科	講師	高	原		幹
H25.10.31	辞	職	病院集中治療部		岡	田		基
H25.11.14	昇	任	医学部英語	教授	三	好	暢	博
H25.12.1	昇	任	病院歯科口腔外科	講師	吉	田	将	亜
H26.1.1	昇	任	医学部看護学講座	准教授	森		浩	美
H26.1.16	昇	任	医学部放射線医学講座	教授	高	橋	康	二